

(2/29
五)

事業所が次々撤退・倒産

1面のつづき

週1回の生活援助が今後も継続して受けられるのか。脳梗塞の後遺症を抱える藤木浩介さん

(73、仮名)は、居住する石川県小松市の介護体制に不安を感じています。

3年前から市の総合事業で生活援助を利用はじめたところ、ヘルパーを派遣する事業所が短期間に次々代わった経験をしたからです。最初の事業所は市町村の裁量で実施する総合事業から撤退。2度目の事業所は倒産。3度目に和田久美子

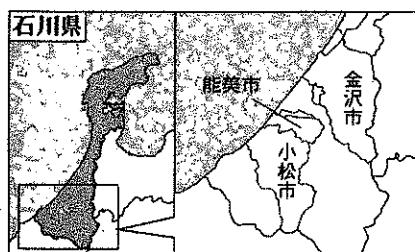


認定のうらやま支援へ、2回の訪問・通所サービスを介護保険給付から外し、総合事業へ移行。15年には介護保険給付の報酬を実質4・48%も引き下げ、各地で介護事業所の倒産や撤退を引き起こしました。

さん(72)が運営する事業所に代わるまで「毎週のようにヘルパーが代わり、生活援助でなにがしてもらっているのかも分からぬ」(藤木さん)状況が続きました。

背景に連続改悪

背景には安倍政権による介護保険制度の連続改悪があります。2014年には、7段階ある介護



藤木さんが利用する週1回の訪問型の生活援助サービス(「基準緩和型」)の場合、小松市から事業所が受け取る報酬は処遇改善加算などを加えて月1万円程度なのに、隣の能美市では最近まで月8千円でした(10月から引き上げ)。近隣には、そもそも「基準緩和型」の訪問サービスを実施していない自治体もあります。

石川県南部の自治体の介護認定をしているある

「介護事業所の収入はほとんどが国からの介護

事業から撤退し、小さい事業は順番に倒産していく状況」(和田さん)

藤木さんが利用する週1回の訪問型の生活援助サービス(「基準緩和型」)には全くお金が残らない。大手の事業所は総合

事業所は閉めないから安心して」と語りかけます。

和田さんの子どもが幼少

時に医療事故で障害を負

い、支援が必要な人がい

るということを実感して

いるからです。

「介護事業所の収入はほとんどが国からの介護

報酬。その報酬単価は2

000年の介護保険開始

以降、のきなみ引き下げ

られてきた。普通の仕事

で十数年働いて給料が下

がるとほほとんどない

けど、介護報酬は下がる

一方。それでも職員の給

料を下げるわけにはいか

ない。これ以上改悪され

れば持たない」(和田さ

ん)

だいいけど、5回の月は

小松市の単価でも事業所

には全くお金が残らな

い。大手の事業所は総合

事業所は閉めないから安心

して」と語りかけます。

和田さんの子どもが幼少

時に医療事故で障害を負

い、支援が必要な人がい

るということを実感して

いるからです。

「介護事業所の収入はほとんどが国からの介護

報酬。その報酬単価は2

000年の介護保険開始

以降、のきなみ引き下げ

られてきた。普通の仕事

で十数年働いて給料が下

がるとほほとんどない

けど、介護報酬は下がる

一方。それでも職員の給

料を下げるわけにはいか

ない。これ以上改悪され

れば持たない」(和田さ

ん)

だいいけど、5回の月は

小松市の単価でも事業所

には全くお金が残らな

い。大手の事業所は総合

事業所は閉めないから安心

して」と語りかけます。

和田さんの子どもが幼少

時に医療事故で障害を負

い、支援が必要な人がい

るということを実感して

いるからです。

「介護事業所の収入はほとんどが国からの介護

報酬。その報酬単価は2

000年の介護保険開始

以降、のきなみ引き下げ

られてきた。普通の仕事

で十数年働いて給料が下

がるとほほとんどない

けど、介護報酬は下がる

一方。それでも職員の給

料を下げるわけにはいか

ない。これ以上改悪され

れば持たない」(和田さ

ん)

だいいけど、5回の月は

小松市の単価でも事業所

には全くお金が残らな

い。大手の事業所は総合

事業所は閉めないから安心

して」と語りかけます。

和田さんの子どもが幼少

時に医療事故で障害を負

い、支援が必要な人がい

るということを実感して

いるからです。

「介護事業所の収入はほとんどが国からの介護

報酬。その報酬単価は2

000年の介護保険開始

以降、のきなみ引き下げ

られてきた。普通の仕事

で十数年働いて給料が下

がるとほほとんどない

けど、介護報酬は下がる

一方。それでも職員の給

料を下げるわけにはいか

ない。これ以上改悪され

れば持たない」(和田さ

ん)

だいいけど、5回の月は

小松市の単価でも事業所

には全くお金が残らな

い。大手の事業所は総合

事業所は閉めないから安心

して」と語りかけます。

和田さんの子どもが幼少

時に医療事故で障害を負

い、支援が必要な人がい

るということを実感して

いるからです。

「介護事業所の収入はほとんどが国からの介護

報酬。その報酬単価は2

000年の介護保険開始

以降、のきなみ引き下げ

られてきた。普通の仕事

で十数年働いて給料が下

がるとほほとんどない

けど、介護報酬は下がる

一方。それでも職員の給

料を下げるわけにはいか

ない。これ以上改悪され

れば持たない」(和田さ

ん)

だいいけど、5回の月は

小松市の単価でも事業所

には全くお金が残らな

い。大手の事業所は総合

事業所は閉めないから安心

して」と語りかけます。

和田さんの子どもが幼少

時に医療事故で障害を負

い、支援が必要な人がい

るということを実感して

いるからです。

「介護事業所の収入はほとんどが国からの介護

報酬。その報酬単価は2

000年の介護保険開始

以降、のきなみ引き下げ

られてきた。普通の仕事

で十数年働いて給料が下

がるとほほとんどない

けど、介護報酬は下がる

一方。それでも職員の給

料を下げるわけにはいか

ない。これ以上改悪され

れば持たない」(和田さ

ん)

だいいけど、5回の月は

小松市の単価でも事業所

には全くお金が残らない。大手の事業所は総合事業所は閉めないから安心して」と語りかけます。

和田さんの子どもが幼少時に医療事故で障害を負い、支援が必要な人がいるということを実感しているからです。

「介護事業所の収入はほとんどが国からの介護報酬。その報酬単価は2000年の介護保険開始以降、のきなみ引き下げられてきた。普通の仕事で十数年働いて給料が下がるとほほとんどないけど、介護報酬は下がる一方。それでも職員の給料を下げるわけにはいかない。これ以上改悪されれば持たない」(和田さん)

だいいけど、5回の月は小松市の単価でも事業所には全くお金が残らない。大手の事業所は総合

事業所は閉めないから安心して」と語りかけます。

和田さんの子どもが幼少時に医療事故で障害を負い、支援が必要な人がいるということを実感しているからです。

「介護事業所の収入はほとんどが国からの介護

報酬。その報酬単価は2000年の介護保険開始以降、のきなみ引き下げられてきた。普通の仕事

で十数年働いて給料が下

がるとほほとんどない

けど、介護報酬は下がる

一方。それでも職員の給

料を下げるわけにはいか

ない。これ以上改悪されれば持たない」(和田さん)

だいいけど、5回の月は小松市の単価でも事業所には全くお金が残らない。大手の事業所は総合

事業所は閉めないから安心して」と語りかけます。

和田さんの子どもが幼少時に医療事故で障害を負い、支援が必要な人がいるということを実感しているからです。

「介護事業所の収入はほとんどが国からの介護

報酬。その報酬単価は2000年の介護保険開始以降、のきなみ引き下げられてきた。普通の仕事

で十数年働いて給料が下がるとほほとんどない

けど、介護報酬は下がる

一方。それでも職員の給

料を下げるわけにはいか

ない。これ以上改悪されれば持たない」(和田さん)

だいいけど、5回の月は小松市の単価でも事業所には全くお金が残らない。大手の事業所は総合

事業所は閉めないから安心して」と語りかけます。

和田さんの子どもが幼少時に医療事故で障害を負い、支援が必要な人がいるということを実感しているからです。

「介護事業所の収入はほとんどが国からの介護

報酬。その報酬単価は2000年の介護保険開始以降、のきなみ引き下げられてきた。普通の仕事

で十数年働いて給料が下がるとほほとんどない

けど、介護報酬は下がる一方。それでも職員の給料を下げるわけにはいかない。これ以上改悪されれば持たない」(和田さん)

だいいけど、5回の月は小松市の単価でも事業所には全くお金が残らない。大手の事業所は総合

事業所は閉めないから安心して」と語りかけます。

和田さんの子どもが幼少時に医療事故で障害を負い、支援が必要な人がいるということを実感しているからです。

12/29
东旗

糖尿病でも「通院の金ない」

「最近立ち止まること多い。」

記憶も持続しません。それでも介護認定は2番目に軽い要支援2。全国一律の介

藤木さんは長年会社を経営していたものの、倒産。

院すると1回5千～1万円
する。市の健康診断には行
ったが病院には最近行って

の悪化で体が衰えれば、一人暮らしはますます困難になります。

今月初め、石川県小松市の藤木造介さん(73、仮名)を訪ねると不安の声が漏れきました。介護事業所を

護保険給付の対象にはならないため、市が裁量で実施する総合事業の生活援助を受け、和田さんの事業所の

年金の加入期間が短いため年金額もわずか。妹夫婦が所有する家を借り一人で暮らしています。

「いいえ」
差し出された健診結果
に、和田さんの表情が曇りました。血圧が高く、心臓

経済的な心配がなわれば
リハビリしたいかと尋ねら
れた藤木さん。しづし考え
た後、諦めたようにつぶや

(72) に回行しました。

藤木さんが糖尿病の合併症で脳梗塞になったのは10年ほど前。体に障害が残り、

清掃などに訪れます。

必要でした。藤木さんも脳 「もう手遅れ。これ以上



和田さん（正面）に 症状を語る藤木さん

石川県に見る

上

の貰い物だけ。9月に愛犬が亡くなつたことで余計に外出の機会が減りました。底冷えする部屋の中、孫の写真が置かれたこたつに足を入れ、テレビを見て過ごす日々。運動不足や糖尿病

安倍政権が進めてきた社会保障の連続改悪や消費税増税が、高齢者の暮らしに複合的に襲いかかり、生存権を脅かす事態を生みだしています。「1億総活躍」のかけ声の裏で進む社会保障改悪の実態を、石川県の介護の現場からみました。